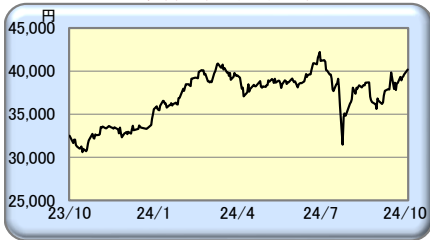


1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株 (日経平均) >



<米国株 (NYダウ) >



<円/ドル >



(注)チャートは過去1年

	単位	2023/12/31	2024/9/30	2024/10/11	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	33,464.17	37,919.55	39,605.80	42,426.77	2024/7/11	24,681.74	2022/3/9
NYダウ	ドル	37,689.54	42,330.15	42,863.86	42,899.75	2024/10/11	28,660.94	2022/10/13
円/ドル	円	141.04	143.63	149.13	161.95	2024/7/3	112.53	2021/11/30

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ 堅調な米景気と円安進行を背景に上昇 ~

先週の日本株市場は、日経平均が+970.18円 (+2.51%)、TOPIXが+12.13ポイント (+0.45%) となり、堅調な米景気と円安進行を背景に上昇しました。業種別でみると精密機器、銀行業、サービス業などの14業種が上昇した一方、金属製品、鉄鋼、鉱業などの19業種が下落しました。

週初7日は、先々週末に発表された米雇用統計が市場予想を上回ったことを受け、為替が1ドル148円台まで円安進行したことなどから輸出関連銘柄中心に大幅上昇しました。8日は、前日までに発表された米国の強い経済統計を背景に米長期金利が節目の4%台まで上昇したことや、イスラエルがイランに対し報復へ動くとの観測が広まったことなどから大幅反落となりました。9日は、前日の米ハイテク株が上昇したことにより半導体関連株が上昇したことや、中国が追加の財政政策について記者会見を開くという報道が伝わったことなどから上昇しました。10日は、9月の米CPI (消費者物価指数) の発表を前に投資家の様子見姿勢が強い中、1ドル149円台まで円安進行したことがプラスに働き小幅な上昇となりました。週末11日は、衣料品大手のファーストリテイリングが前日に好決算を発表したことが相場を下支えしたものの、内需株中心に売りが広がったことから小幅に下落して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
10月15日	Tue	日本	衆議院選挙公示 (10月27日投開票)		
		欧州	ユーロ圏鉱工業生産 (前月比)	8月	▲0.3%
		ドイツ	ZEW期待指数	10月	3.6
10月16日	Wed	米国	ニューヨーク連銀製造業景気指数	10月	11.5
		日本	機械受注 (船舶・電力を除く民需) (前月比)	8月	▲0.1%
		日本	第3次産業活動指数 (前月比)	8月	+1.4%
10月17日	Thu	米国	貿易収支	9月	▲7,032億円
		米国	小売売上高 (除自動車) (前月比)	9月	+0.1%
		米国	鉱工業生産 (前月比)	9月	+0.8%
		米国	フィラデルフィア連銀製造業景況指数	10月	1.7
		欧州	ECB (欧州中央銀行) 政策理事会		
		日本	CPI (全国消費者物価指数) (除生鮮/前年比)	9月	+2.8%
10月18日	Fri	中国	GDP (国内総生産) 成長率 (前年比)	7-9月期	+4.7%
		中国	小売売上高 (年初来/前年比)	9月	+3.4%
		中国	鉱工業生産 (年初来/前年比)	9月	+5.8%
		米国	住宅着工件数	9月	135.6万件

決算発表予定 他	国内	決算発表 :	10/15 東宝、10/17 ティスコ
	海外	決算発表 :	10/15 ジョンソン・エンド・ジョンソン、BofA、チャールズ・シュワブ、ゴールドマン、シティグループ 10/16 モルガンS、アルコア 10/17 ネットフリックス、スナップ、TSMC 10/18 プロクター・アンド・ギャンブル、アメックス、ホルボ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 米景気への期待や為替の円安進行を背景に緩やかに上昇 ~

今週の日本株市場は、米景気への期待や為替の円安進行を背景に緩やかに上昇するとみえます。今週は17日に米小売売上高が発表されますが、堅調な内容であれば米景気に対する安心感が一段と強まるとみえます。一方、先週までに発表された米雇用・物価関連指標の堅調さからFRB (米連邦準備理事会) の年内大幅利下げ期待は後退しましたが、FRBは緩やかなペースでの利下げを進めるとみており、米景気の底堅さと合わせてリスク資産全般にプラスに働くとみえます。また足元では、FRBの大幅利下げ期待の後退などから1ドル150円近傍まで円安に振れています。過度な円安進行は個人消費への悪影響や日本の通貨当局による為替介入が意識されることから相場の波乱要因として注意が必要とみえますが、現状程度の水準であれば夏場の円急騰以降に高まった輸出企業の業績下方修正懸念が和らぐことで、総じてみれば日本株にプラス材料とみえます。ただし、27日投開票となる衆議院選挙について、政治資金問題や物価高への懸念など与党に厳しい状況にあることが伝わる中で政治的不透明感も意識されやすいことから、しばらくは積極的に上値を追う動きは限られ、緩やかな上昇にとどまるとみえます。その他の注目材料として、日本では16日の機械受注、18日のCPI、米国では15日のニューヨーク連銀製造業景気指数、17日の鉱工業生産、欧州では15日のユーロ圏鉱工業生産、ドイツでは15日のZEW期待指数、中国では18日のGDP成長率などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co., Ltd.
URL: <https://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会 / 一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント (以下、「当社」といいます。) が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。